

【所属名：環境生活課】

【会議名：第3回糸魚川市環境審議会】

会 議 録

作成日 平成25年3月28日

日	平成25年3月28日	時間	13:30 ~ 15:45	場所	本庁 201・202 会議室
件名	議題 糸魚川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）中間答申（案）について 環境基本計画PDCA進行管理表について（公開）				
出席者	【出席者】 12人 佐藤(芳)委員 鷺澤委員 田村委員 小林委員 佐藤(晋)委員 吉田委員 山岸委員 清水委員 杉野委員 小野委員 山本委員 磯貝委員 【欠席者】 2人 恩田委員 小笠原委員 【事務局】 吉岡部長、渡辺課長、中村課長補佐、高野係長、小熊主査				
	傍聴者定員		人	傍聴者数	0人

会議要旨

- 1 開会 進行 渡辺課長
- 2 会長あいさつ 佐藤会長
- 3 議事

《主な質疑・意見》

・糸魚川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）中間答申（案）について

【委員】 温室効果ガス排出特性の部門別排出量で、業務と運輸が増加しているとあるが、後段ではどちらも減少傾向となっている。対比年度が違う。2,000年度を間に入れれば下がっていることが理解できる。

【事務局】 基準年度と比較してというような標記で統一したい。

【委員】 動植物生息状況等調査に、魚類と書いてあるが池などの淡水系と考えればいいか。

【事務局】 行政の立場と、事業者としての市役所の違いがあり、この表だと分からなくなる。事業者としてやることの違いが見えない。ISOやエコアクションが増えれば、うまく回っていると考えられるが、啓発しますでは見えない。実績が下がってきている場合もあり、啓発ばかり言っても意味がない。

【事務局】 啓発と実際にやる部分では違いが出るのは承知している。担当部署ごとに取りまとめ、啓発・支援に関するPDCAをつくる方法で取り組みたい。分かりづらいものについては、PDCAの中で改善していきたい。啓発という事業の中でも、成果について評価していきたい。

- 【委員】 森林吸収機能の向上について、植林・間伐・下草刈りなどの計画的な森林整備を推進しますとあるが、実際に計画はあるか。
- 【事務局】 森林整備計画の中で計画があり、今年もそれにそって整備されている。
- 【委員】 林道整備で分断され生態系が崩れるという話はよくある。トンネルなどで獣道をつくるところもある。生態系を壊さない配慮を。
- 【委員】 国の方針に合わせて25パーセントの削減目標は、非常に厳しい数字。「必要に応じて見直し」とあるが、「必要に応じて」を削除したほうがいい。国の目標数値により変えていかざるを得ない数字。達成できない時に見直すのかと思われかねない。
- 【事務局】 国の見直しがされない場合もあり、このような表現になっている。
- 【委員長】 検討して行ってほしい。
- 【委員】 実行計画自体の位置付けは、これから目標管理をしていく。ひとつの体系として見てもらえれば、これはこれでもいい。
- 【委員長】 見えづらいという意見もあるが、大まかな部分であると考えれば、そういった見方もできる。
- 【委員】 ISO などでは、作業員の環境意識の向上など、資金がなくてもできることがあるのが基本的な考え。そういう意識を報告いただくのも方法と思う。大きな事業者には考え方を市に報告させるというのもひとつの考え。積極的な投げかけや、条例なども必要でないか。
- 【事務局】 アンケートを見ても、事業所の方が厳しいという現状がある。事業者との連絡を密にして、事業者の課題や状況を把握し、有効策の啓発に努めたい。
- 【委員長】 実際に取り組むとなると難しいところもあるが、どのように考えているか。
- 【事務局】 支援や、率先導入については、比較的容易だが、啓発はやっていただくということが伴うので、大きな目標数字の取り組みは難しいなと感じている。
- 【委員】 不景気なので、やりたい気持ちは持っているということを啓発するだけでも、いいのでないか。やったことを実績とするのではなく、啓発したということでもいい。意識は高まっているが、予算がなくてできないというのも実績でないか。
- 【委員長】 この施策により、考えなど内容が充実していくということでもいいのでないか。
- 【委員】 アンケートを3年後にもやってみて、意識が高揚しているのか、再度聴けば意識の状態も分かる。市民への浸透状況を確認し、計画を立て直せばいい。
- 【事務局】 アンケートなどで最終的な確認は必要と考えている。そういうものも取り組む。

・環境基本計画P D C A進行管理表について

▼自然環境

- 【委員】 猟友会の人数は増えているか。
- 【事務局】 猟友会は増えているが、銃を持っている人は減っており、高齢化が進んでいる。
- 【委員】 銃の所持者を増やす意識はあるか。
- 【事務局】 取得に支援をしており、PR 活動を進める中で取組んで行きたい。
- 【委員長】 地産地消の考えは、学校給食などで工夫していくということだが、具体的には。

- 【事務局】 前回の審議会でもご意見があり、担当課にも伝えた。地産地消の方向で検討中。
- 【委員】 不法投棄防止の啓発と監視体制、以前の審議会でも、積極的なパトロールでごみを回収する量は増えたが、投棄される量はあまり変わっていないという話があったが、その後の推移はどうか。
- 【事務局】 パトロール員を増やすと、回収量が増えるという実態はある。ただ、パトロールをすることで、不法投棄を減らしていくしかないので、夜間パトロール等も今年度取り入れ、青色回転等を付けた車を準備した。不法投棄物に本人が特定できる物があれば警察と連携し、犯人の特定をする取り組みもしている。
- 【委員長】 情報収集をし、不法投棄等の対策をして行ってほしい。
- 【委員】 ヨーロッパでは使用禁止となっているネオニコチノイド系農薬は行政の指導で佐渡では使わない。当市でも、そういった事例があれば、加味して標記してほしい。
- 【事務局】 具体的な規制を確認する。エコライスも調べてからお伝えする。進行管理表では、細かいところまで書くのは困難なため、このような標記とさせていただいている。
※休憩後に回答
エコライスは、農薬を県基準の半分に抑えている。具体的には、農薬 17 成分から 8 成分に制限。化学肥料を少なくし、有機肥料を 50%以上使うという定義付け。ネオニコチノイドの禁止は取り組んでいない。
- 【委員】 狩猟免許取得人数が増えたということだが、免許取得する人が増えて、被害が減るという傾向はあるか。
- 【事務局】 農作物被害は 23 年度から見れば増えている。被害としてはイノシシ、サルによるものが多い。罾免許取得者が多いが、成果は出ていると考えている。電気柵も取り組まれており、大きな効果が出ている。
- 【委員】 ウルフピーを使用し効果あったと感じている。今年度も取り組んで行くのか。
- 【事務局】 オオカミの尿の臭いには動物が近づかない習性を利用したもので、効果があるという話もあるが、慣れてくると効果がなくなるという話もある。市でも所有し貸与している。
- 【委員】 猟銃を所持している人は、即、有害鳥獣の駆除に当たっていけるのか。
- 【事務局】 有害鳥獣駆除は許可を得た者のみ。そういった面を猟友会にお願いしている。
- 【委員】 農作物被害などについては、成果に黒丸を付けられる内容でない。前年と比べてどうかという評価がないとわかりづらい。ひとつの欄に複数の課題があっても、黒丸を付けるのはひとつだけ。これではわからない。
- 【事務局】 実績欄への記載方法は今後検討したい。
- 【委員長】 数字が出せる物は、掲載して行ってほしい。

▼生活環境

- 【委員】 霞のかかるような天気は、黄砂だけでなく PM2.5 も原因でないかを感じる。どのように確認し、どのように周知するのか。将来的には確認機器を購入することを希望するが、いかがか。
放射線は、広報等に細かく出ているが、基準との関係が分かりづらい。分かりやす

い提示が必要。

【事務局】 PM2.5は県が6箇所のデータを収集し、基準を超えると判断した場合に各市町村に連絡をすることになっている。連絡が来た場合、当市としては光化学スモッグと同様の体制をとっている。安心メール、広報無線での周知や、施設管理者に一斉に周知し、イベント等があれば対象者に連絡する。場合により、広報車での街宣も行う。観測を開始して基準を超過するような日はまだない。黄砂が来るから同時にPM2.5が高くなるというわけでない。観測地点は新潟市周辺が多く、遠く感じるかも知れないが、帯状に来ることが多く、データに大きな違いはない。富山や上越の観測局の数字も監視している。

放射線測定結果はすべて公開している。標準値の表記は見やすい工夫をしたい。

【委員】 井戸の所有状況を把握しているということだが、更新方法など具体的な手法は。

【事務局】 全戸対象に飲用井戸の所持状況調査をし、結果は庁舎内GISシステムで確認できるようにしている。油漏れ等の事案には、そのシステムで周辺井戸が把握できるので、確認の連絡を入れさせていただいている。使用を中止したなどの情報があれば、そういった作業の中で、更新させていただいている。

▼地球環境・環境行動

【委員長】 進んでない事業目標を下方修正する考えはあるか。

【事務局】 現時点では下方修正は考えていない。

【委員】 見直しに「完了」でいいものもある。例えば国道の渋滞量などは完了でいい。

【事務局】 次回の目標数値では表記方法を見直しさせていただきたい。

【委員】 根知の「よーほい」は、どこの地区のものか。場所によっては、地区民が少なくなってきた。

【事務局】 具体的な場所までは確認していない。人が減り、維持が難しくなっている部分もあり、今の内に記録として残したいというもの。

【委員】 電気自動車急速充電器の25年度設置予定は。また、実際の利用者数は。

【事務局】 25年度の設置予定はない。26年度に、糸魚川地域で一基予定している。

ピアパークの利用状況は、4月から全体で50件程度。マリンドリームはこの日曜にオープンし、イベント日ではあったが、その日の内に3人の利用があった。

【委員】 当市は、貴重な動植物が多い。貴重な動植物がいるということは、周辺の生態系がいいということ。その辺のことを加味して広報しているか。

【事務局】 今の段階は、調査中であり、代表的なものをお知らせさせていただいている。

【委員】 広報での伝え方により、ジオパーク関連につながられる場合もある。崖に巣をかけるような、糸魚川に多い鳥などを広報していただければ、よかったと感じた。

【事務局】 平成26年、図鑑のように作っていくこととしているので、そういった中で広報等を工夫させていただきたい。

【委員】 イヌワシやクマタカなど、環境の指標となる貴重な生物は、糸魚川の自然が、いかによい状態で残されているのかというアピールが必要。

【事務局】 そのような方法で、周知したい。

【委員】 放射能のデータを広報に出しているが、市民の反応は。

【事務局】 反対意見などは開始してから 10 名程度。データを見ているという声はいただいている。

4 その他

【委員】 市の埋立ごみで、プラスチックなど燃料として使えるものがあると思う。セメント会社で燃料とするような協議を行っているか。

【事務局】 本年 5 月頃から、埋立ごみの中から、プラスチックのみを分別し取り出し、破碎後にセメント会社で燃料として利用いただき、それ以外の残渣は、埋立している。ガラス陶磁器なども現在、調整中。上越企業での燃料化と 2 本建てで進めている。

【委員】 地元に企業があるのだから、埋め立てるのでなく燃料として使ってほしい。

【委員】 その話は初めて聞いたが、それなら市民が分けて出せば、もっと楽なのかと思うが。

【事務局】 当市の場合 18 分類という多い分類。現在は試験的な運用とさせていただいている。清掃センターの改修計画などと合わせ検討させていただきたい。

5 閉会 鷲澤副会長